

展示会に出展して

—テクノトランスファーかわさき—

山口 栄雄*

A brief report on Techno-Transfer Kawasaki exhibition

Shigeo YAMAGUCHI*

1. 報告

平成 18 年 7 月 12～14 日に川崎市で開催された、テクノトランスファーかわさきに研究室から出展を行った。展示会の規模は比較的小さく、出展者は地元の中小企業を中心に、他に数校の大学が見られた程度であった。

我々の展示ブースには何社かの企業の方に興味を持って頂いたが、具体的に共同で何かを推し進めるような形には至らなかった。しかし、このような展示会は、大学の研究成果を世間にアピールする意味で重要な役割を担い、大学にとって大きな宣伝や貢献になると思われた。

これまでの出展について、神奈川大工学部に関する限り研究室や分野は偏っている感がある。展示内容をもっと充実させ、教員が意欲的に出展に協力するようなシステムを構築することが、今後の産官学連携には不可欠であると思われる。

参加教員にとっては、学期期間中の出展となれば講義や会議が開催期間と重なり、実際には負荷が相当大きく当日ブースに立っていない事もある。その場合には、複数の大学院生や卒研生に活躍してもらうこととなり、アルバイト費用等がそれなりに必要となる。このような負荷を越えて、出展へのモチベーションを生み出すための方策として、産官学連携推進室からの研究費（アルバイト費以外）等の援助と教職員の連携・協力をお願いしたい。これによりさらに産官学連携が推し進められる事が期待でき、多方面へのさらなる発展に繋がると思われる。例えば、展示会への参加学生は補助の役割を越え、卒業する彼らにとって参入していく社会との接点にもなり経験ともなる。実際、展示会に参加し、企業の方々と議論を行った学生は全員、参加してよかった、勉強になったと口に揃えて言う。このように、展示会に参加すること自体には深い意義があるのである。

最後に、これまでの様々な展示会出展に関する産官学連携推進室による報告書の作成および公表を、われわれの認識と理解を深めるためにも、強くお願いしたい次第である。



写真1. 展示会開会式の模様



写真2. 神奈川大学の展示ブース

2. 謝辞

本研究の一部は、文部科学省ハイテクリサーチセンタープロジェクトの援助による。

*教授 電子情報フロンティア学科
Professor, Dept. of Electronics and Informatics Frontiers